

「東京わっさむふれあい会」開催延期のお知らせ

いつまでも収束しない新型コロナウイルスには戸惑うばかりですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

2021年に開催を予定していた「東京わっさむふれあい会」は、新型コロナウイルスの影響を考慮して1年延期することとしました。2年ぶりの再会を心待ちにされていた方も多くいたと思いますが、今しばらくお時間をください。

新型コロナウイルスが落ち着いた状況を見計らって再度計画し、皆様にお知らせいたします。よろしくお願いします。

会長 高岡正見



ふるさとLETTERS 「皆さんお元気ですか?!」

大黒智恵（昭和22年生まれ）

ふる里の話は懐かしいくつになっても嬉しいものです。

私は朗読ボランティアを長年続けており仲間との勉強会には、プロの先生方に講師をお願いしています。そんな折、春風亭柏枝さんがゲストで来られ、早速駄目もとでお願いしましたら、なんと柏枝さんもボランティア精神で来て下さいました。

いつもの雰囲気とは違い漸々さんだけに、楽しい中にも“気持ちはボランティアで、芸はプロとして”の講義を教わりました。

私たちの活動は児童館や老人ホーム等、デイケアの方々は皆さんお元気でトークもとても喜ばれるのです。

ユーモアの大切さ、どんな時もコミュニケーションには欠かせませんね。

柏枝さん有難うございました。これもふれあい会あってのご縁です。



横田和由（昭和23年生まれ）

同級生の便りで和寒の空気をおすそ分けします。札幌に「焚き火 cafe」があり、仕事帰りの若い女の子が立ち寄って1~2時間癒しています。北産木材の焚き木です、とのメモ。電話をすると「南丘森林公園はソロキャンプで賑わっているよ」。

1月に続報。上川管内は冬キャンプ営業続々の新聞記事とメモ。「思いもよらない時代、女子が夜-20~30°Cになる中、焚き火に想いを寄せてやって来る、すごい時代」と。ほっこりと逞しさが伝わって来ました。



岡 広恵（昭和59年生まれ）

私は広告のグラフィックデザイナーです。主に商業施設のポスターやチラシを制作しています。この仕事も10年以上やっていますが、流行のデザインを吸収したり、新しい情報を常に追うことは未だにとっても刺激になります。この仕事は大変なイメージを持たれていますが、自分がデザインしたものが世に出ているのを目にした時は嬉しく、大変なことも報われる気持ちになります。誰かの行動のきっかけになるものを作る仕事をしていることにやりがいを感じています。



昨年の春、丸の内エリアにある商業施設に置かれた冊子です。



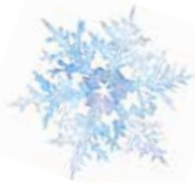
発行「東京わっさむふれあい会」次号は10月発行の予定です。

ふるさとLETTERSの原稿を募集中。和寒出身者がおられましたらご紹介ください。

事務局：菅原充子 東京都北区王子4-4-16 E-mail: wassamumitsuko@gmail.com

故郷のこと、
聞いてみよう！ 見てみよう！

加藤大平さん（元オリンピック選手）＆
塚本麻里さん（地域おこし協力隊）に
お話を伺いました。



「冬を楽しもう、雪を楽しもう」

Q1 オリンピアンが住んでいる町というだけで 期待感が高まります。 Uターンしようと思った動機をお聞かせください。

目標にしていた2018年平昌オリンピックに出場が叶わず、2018年3月末に選手を引退しました。高校卒業からスキーしかやってきておらず世間の常識も知らないような状態でしたので、一年就職活動をしながらいろいろな経験をしてみようと思って、アルバイトを掛け持ちしながら就職活動をしていました。

その期間に、和寒町で働いてみないかと奥山町長から声をかけていただきました。決断した背景としては、スキーをやっていると良い時もあれば悪い時もありますが、どんな時でも変わらず応援してくれたのが和寒町の皆さんでしたので、微力でもなにか和寒町の力になればという思いがありUターンしようと思いました。

Q2 改めて故郷の良さをお聞かせください。

私は高校入学と同時に和寒町を離れましたので、約20年ぶりに故郷に再び住むことになりました。昔は何もなくてほしいものがあたら遠くに買い物に出かけなくてはいけない不便な街だと思っていました。ですが今は時代が変わりインターネットで頼めば玄関まで届けてくれますし、高速道路があるので札幌もそれほど遠くないです。駅は特急が止まるし、高速バスも通っていますので結構便利なんです。四季も綺麗で、夏は暑いですが夜になれば涼しいですし、冬は厳しい寒さですが、慣れればそんなに気にならなくなり、ゆったりと時間が流れているように感じます。

Q3 グローバルな視点で 和寒のポテンシャルをお聞かせください。

ヨーロッパでは冬はスキーを楽しむ文化が根付いており、老若男女問わずスキー場にはいつもたくさんの方がいますが、気象条件や雪質といった点では北海

加藤大平さん

和寒町生まれ。ノルディック複合選手として2010年バンクーバー、2014年ソチと2度の冬季オリンピックに出場。現在は和寒町教育委員会勤務。

道、更には道北には遠く及びません。現役選手の時国内外たくさんのスキー場に行かせてもらいましたが、雪質・環境は世界に誇れると思っています。和寒町は毎日のように雪が降り、気温が低いので雪が常にいい状態で保たれており、更には町の中心部から徒歩で行けるスキー場というのは本当に珍しいと思います。

除雪が大変だったり、寒いのが苦手だったりするかもしれませんが、「冬を楽しもう、雪を楽しもう」と思ったら和寒のようなポテンシャルを持った町はそうそうないのではないのでしょうか。

今はスキー少年団の指導をしていますが、オリンピック選手を育てるという気持ちではなく、とにかく冬を楽しむ、雪を楽しむ、スキー・スポーツを楽しむということに重点をおいています。その先にオリンピックに出たいという目標が自然に湧いてきたら個人的には嬉しいですが、最初からトップアスリートのような厳しい練習を課してしまうと子供たちの選択肢を狭めてしまうと感じていて、和寒の恵まれた環境に感謝しながらスキーを楽しむ気持ちを伝えていけたらと思っています。



東山スキー場で行われたヒルクライムレース開催にも尽力。詳しく知りたい方は、公式Facebookページからどうぞ。

Q4 今興味をもっていることをお聞かせください。

息子がもうすぐ2歳になるのですが、冬になってからあまり外に出たがらず、どうやら雪が好きになってくれるか試行錯誤しています。親も子どもと一緒に雪で遊び、成長できるような取り組みに興味があります。あとはせっかく北海道にいるのでオートバイに興味があるのですが、妻に反対されています。今は教育委員会にいますので和寒にお立ち寄りの際は是非遊びにいらしてください。

「雪国らしい作り方の 麺ができそうで楽しみです」



Q1 「Hakko Class.」で斬新な情報を 発信しています。和寒を選んだ理由は？

2013年に農業体験実習を受けさせていただき、今回はその当時からお世話になっている町民の方々とのご縁で来ています。当時は北海道の大自然で農業がしたくて、ネットでたまたま見つけたのが和寒との出会いです。



Q2 発酵食品の製造をしようと思った動機は？

元々農業に関心があり、道内のある自然栽培農家さんのお話を聞きに行ったところ、「発酵」が農業や生き方にも通じる考え方だと聞いて感銘を受けたのがきっかけで発酵を学ぶようになりました。そこから、微生物を扱う＝醸すのが楽しくなり、発酵食を作ったり、手づくりする方法をお伝えするうちそれが仕事となりました。主宰教室で材料を仕入れていると、これらを自前でできたらいいなと思うようになって、よく使う材料である麺を製造販売しようという発想になりました。

塚本麻里さん

令和2年3月から地域おこし協力隊として和寒に在住。地域おこし協力隊とは、総務省が2009年度からスタートした地域活性化事業の一つ。

Q3 冬の寒さや積雪量などで驚いたことや失敗は ありませんか。温度との格闘もあると思います。

4年間住んだ深川では車庫がありスムーズに使っていたので無意識だったのですが、和寒の今の住まいには車庫が無いので、車が凍ったり、エンジンなど気を付けるべきことがあるのを今さら知りました。また、麺の製麺においても、冬場の温度の上がりづらは本州の冬とは比べものにならないように感じていますので、季節に応じた製麺をしていこうと思います。でも、それならそれなりに雪国らしい作り方の麺ができそうで楽しみです。

Q4 影響を受けた人はどなたですか？ 将来の展望をお聞かせください。

前述の、北海道の自然栽培農家さんです（ニセコLaLaLa Farm 服部吉弘さん）。和寒はあくまで拠点として、活動は全国に向け続けていきます。楽しくためになる発酵情報が届く無料メルマガもぜひご登録下さい。

→無料メルマガ <https://home.tsuku2.jp/mlReg/?scd=0000117859>

→Hakko Class. ホームページ <https://tsuku2.jp/hakko-class>